ニューズレター

日本経営診断学会 第44回全国大会を振り返って

関谷　忠
別府大学国際経営学部教授
日本経営診断学会（理事）
第44回全国大会実行委員長

日本経営診断学会とは

日本経営診断学会は、1968年、平井泰太郎教授の提唱で創立されました。以来、古川栄一教授・山城章教授ら歴代会長によって継承・発展され、輝かしい歴史を有しています。

本学会は日本学術会議に所属し、「経営診断の研究及びその普及を第一義とし、併せてこれに携わる者の連絡及び懇親を計ることを目的としています。現在、年一回の全国大会に加えて、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各部会が設けられ、各部会で活発な研究会が数多く開催されています。会員数は、2011年９月現在で575名、会長は大江宏教授（亜細亜大学）です。

全国大会開催までの経緯

私が初めて日本経営診断学会全国大会に出席させていただいたのは、2004年度、第37回神奈川大学（統一論題「地域ビジネスのルネサンスを考える」）での大会でした。大分県庁を希望退職後、別府大学短期大学部に勤務して４年目でした。学会での活発な議論に驚いたのを思い出します。その後、2005年度、第38回久留米大学（統一論題「経営診断のニューフロンティア」）での全国大会のお手伝いをさせていただき、別府大学でも全国大会を開催したいという思いが湧きおこりました。

2008年には、別府大学創設100周年を迎え、これを契機に、翌年、国際経営学部が新設され、全国大会開催を強く願うようになりました。この間、九州部会や全国大会の折に、古賀勉教授（福岡大学）、岸川善光教授（当時久留米大学、現在横浜市立大学）、石内孔治教授（久留米大学）という歴代九州部会長の先生方や故合力栄先生（日本経営診断学会顧問）にお話し申し上げたところ、先生方の絶大なご支援・ご助力をいただき、今回の全国大会開催が実現いたしました。

統一論題趣意書について

別府大学での全国大会開催の統一論題は、下記主旨から「地域の活性化と経営診断」The Activation of the Area and the Management Diagnosis　とさせていただきました。

「都市部への人口集中と地域における過疎化の進展に加えて、少子高齢化の急速な進行による社会的歪の顕在化が現在の日本の大きな政策課題となっています。政府においても早くからこうした問題に対処するため、全国総合開発計画において、工業開発促進の時代（一全総）、列島改造の時代（新全総）、田園都市国家構想と定住構想（三全総）、一極集中と多極分散型国土形成（四全総）が推進されてきました。

しかしながら、近年、我々の生活に密着し『地域の顔』といわれてきた地方都市における中心商店街の衰退は著しく、これまでの流通政策や近年の中心市街地活性化法をもってしてもその効果は限定的なものとなっています。また、日本におけるものづくりの基盤を支えてきた中小製造業においては、これらの要因に加え

て、円高の常態化により都市部における工業団地においても激減しており、雇用・技術承継対策が大きな問題となっています。

このため、現在の中小企業施策は創業支援、経営革新、事業承継、海外展開などにその重点がシフトしてきています。また、2010年６月には経済産業省から「産業構造ビジョン2010」が公表され、『我々はこれから何で稼ぎ、何で雇用するか』が問われています。

こうした現状に直面するにあたり、理論と実践の融合を目的とする日本経営診断学会として、空洞化や過疎化がすすむ都市部や地方都市における地域の活性化問題を経営診断の視点からとりあげることは喫緊の課題であると同時に、時代の要請であると考えます。

折しも、特色ある地域資源を活用した、また、これまであまり考えられてこなかった農商工連携による新たな取組みも実施され、一部でその効果をあげてきています。こうした地域におけるものづくり、流通、サービスの振興は情報化を前提としたネットワークづくりを抜きにしては語れないでしょう。さらに、九州で言えば、ローカルから東アジアまでを視野に入れた「地産地消」の地域ブランドづくりも必要です。特色ある地域資源を活かした地域・産品・サービスづくりやこれらを対象としたマーケティング対策は観光振興の目玉ともなり、地域活性化の牽引役を務めることが期待されます。

今回、大分県別府市という地方都市でありながら、国際観光温泉文化都市という自然・農林水産物・人という地域資源の豊かな地で、第44回日本経営診断学会全国大会を開催するにあたり、このような趣旨から統一論題を企画いたしました。」（日本経営診断学会第44回全国大会趣意書から抜粋）

大会準備について

大会準備は不慣れな点もあり、大会運営委員会の先生方、特に大江宏会長には頻繁にご指導を仰ぎました。また、北海道・須田孝徳先生、関東・高橋昭夫先生、中部・山本勝先生、関西・酒井理先生、九州・石内孔治先生の各部会長の先生方には、司会者、院生審査委員、診断事例審査委員の各候補者推薦や、報告者名簿の事前確認など、多くのお手数をおかけいたしました。

おかげさまで、大会準備は順調に推移し、浜田博別府市長の歓迎あいさつや平松守彦前大分県知事の特別講演につきましても快くお引き受けをいただくことが出来ました。

大会内容

大会は９月30日（金）13：00からの各種委員会、15：00からの理事会から始まりました。

10月１日（土）は朝から、130名を超える参加者により、自由論題報告12件、診断事例報告３件、大学院生報告12件がスタートしました。各教室では、こうした研究報告とその後の質疑・応答が活発に展開されました。

午後は、基調講演に替えて、今回別府大学のご支援をいただき実施した、浜田博別府市長による「歓迎あいさつ」を兼ねた「ONSEN ツーリズムのまちづくり」、平松守彦前大分県知事（NPO 法人大分一村一品国際交流推進協会理事長）による「国際化時代の一村一品運動」の特別講演は、公開講座として学生のみならず地域の皆様方にも公開し、700名を超える参加者を得て、多くの方々から好評を得ました。

その後、共同研究プロジェクト報告２件、基礎理論特別研究報告１件が行われ、夕方からは、会員総会、懇親会（ホテルサンバリー）が開催され、多くの参加者による懇談が行われました。

翌日10月２日（日）も朝から自由論題報告11件、統一論題報告４件が行われ、最後に次期開催校である北海道大学を代表して、北海道部会長の須田孝徳先生のご挨拶をいただき、無事終了となりました。

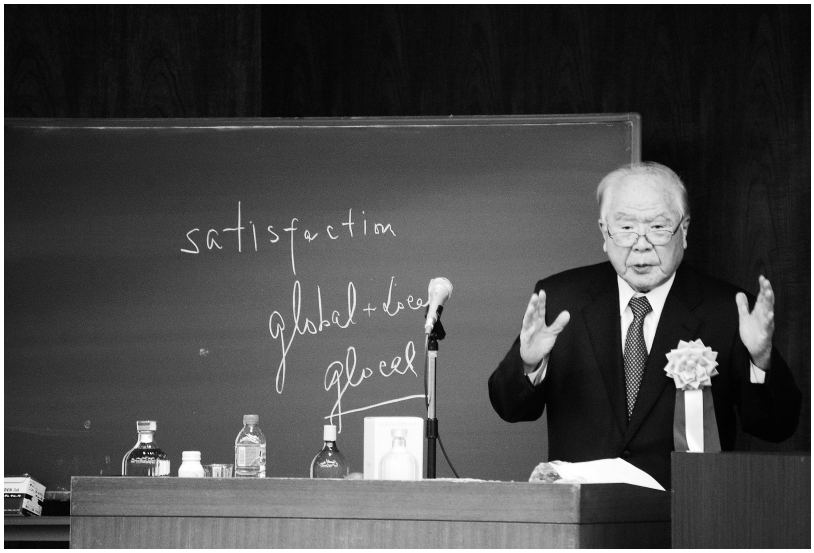
大会運営

大会当日の運営は、各部門での司会者の先生方、新井信裕先生を委員長とする診断事例審査委員、酒井理先生を委員長とする院生審査委員の各先生方のご協力により、予定通り運営する

ことが出来ました。

また、大会運営要員であった学生諸君の対応について、多くの学会員である先生方から「気配りのきいた、真心のこもった対応をしていただいた」と、お褒めの言葉をいただき、大変うれしく感じています。

別府大学側からも多くのご支援をいただき、特に、交通の便の悪さを大学バスの運行により、カバーしたことに対して、多くの参加者からお礼の言葉をいただきました。



最後に

別府市という地方都市、しかも小規模大学での歴史ある学会の全国大会開催に、ご支援・ご参加いただきました多くの先生方、関係者の皆様方に、あらためてお礼申し上げます。

国際経営学部 学会研究会 2011年度活動記録

中道　眞

第１回研究会（６月１日（水）14時40分から16時10分）於39号館3953
共同研究報告者：矢澤信雄教授、西村明教授
報告テーマ：「社会の持続的成長とライフサイクルコスティング―欧米諸国と日本との比較において―（平成23年度科学研究費＜基盤（C）一般＞（研究代表者・矢澤信雄））」

第２回研究会（７月６日（水）14時40分から16時10分）於39号館3953

第１報告
報告者：安藤茂樹教授
報告テーマ：「書評「沼上幹、軽部大、天野倫文他『現代経営理論』有斐閣、2008年」

第２報告
報告者：阿部博光准教授
報告テーマ：「大分と自然エネルギー―阿部博光『大分発自然エネルギー最前線―自給率日本一の実力―』大分合同新聞社、2011年―」

第３回研究会（10月５日（水）14時40分から16時10分）於39号館3953
第１報告
報告者：宿元明教授
報告テーマ：「中国における大学事情と中国出張講座報告」

第２報告
報告者：中道眞准教授
報告テーマ：「社会経営学とテイラー学説～中道眞「テイラー学説の悲劇」重本直利編『社会経営学研究』晃洋書房、2011年、第12章を題材として～」

第４回研究会（11月２日（水）14時40分から16時10分）於39号館3953
報告者：角田幸太郎助教
報告テーマ：「英国プロサッカークラブにおける年次報告書の考察―Tottenham Hotspur PLC を中心として―」

第５回研究会（12月７日（水）14時40分から16時10分）於39号館3953
報告者：米村浩教授
報告テーマ：「経済紙における業界景気予測と株価の関係」